

斐太北小 ESDだより

Education for Sustainable Development(持続可能な社会の創り手を育む教育)

稲刈り・脱穀から学ぶ持続可能な未来

本校では、5年生の「みらい学習」で、今年も稲刈りと脱穀の体験学習を行いました。9月2日(火)、5日(金)に子どもたちは、自分たちが春から世話をしてきた稲を鎌で刈り取り、天日干しをし、脱穀機にかけて米へと近づいていく過程を実感しました。特に今年は、猛暑と小雨という厳しい自然条件のもと、有機肥料で稲を育てあげ、収穫できたことが大きな喜びとなりました。子どもたちは「今年のお米はまるで**奇跡のお米**だね」と表現し、自然と人の力が合わさった実りに感動していました。地域のCS(コミュニティ・スクール)関係者の皆様の温かいご協力に心より感謝いたします。

子どもたちの観察は鋭く、稲を干す前の水分量が25%だったのに対し、天日干し後には15%程度に減っていたことを、手にした稲の重さや手触りを通して実感していました。「軽くなったね」「乾いてきたんだね」とつぶやく姿から、自然の力を活かした知恵に気づく様子が見られました。ゆっくり天日で乾かすことで甘みが増すと教えていただき、ご飯を炊いたときの味に興味関心を高めた子もいました。

また、昔ながらの手刈り作業と、大型コンバインによる最新の稲刈りを比較体験できるように学びの環境を整えました。GPSを搭載し、冷房の効いたキャビンで快適に作業ができ、Bluetoothで音楽まで聴ける現代の農業機械に触れ、子どもたちは「すごい!」「農業ってかっこいい」と目を輝かせていました。**手作業の大変さと効率化の意義を体感することで、農業のもつ過去から未来への広がり**を学ぶことができました。収穫したお米は…30kgの米袋3つと半分でした。

稲作は単に米を得るための営みではなく、自然との関わり、地域の知恵、人の手と技術の進化が支え合って成り立っています。この学びを通して子どもたちは「命をいただくことの重み」と「持続可能な未来をつくる可能性」の両方を感じ取っています。創立150周年という節目の年に収穫した今年のお米は、まさに「**奇跡のお米**」です。その奇跡を胸に、未来へとつながる学びをさらに広げていきます。

